

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890900109		
法人名	社会福祉法人 兼誠福祉会		
事業所名	グループホームメヌエット		
所在地	西宮市浜脇町4-33		
自己評価作成日	平成23年5月28日	評価結果市町村受理日	平成23年7月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライヴ・クラブ ナルク兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2-27-19		
訪問調査日	平成23年6月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・同じ担当者によるケアを希望するご家族様・生活者様が大半であり、安定し充実した継続性のあるケアを目指し、職員の職場環境の改善・充実化に力を入れている。</p>
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームメヌエットは本館(西館;特養ホーム)と東館(特養、デイサービス、GH)によって構成され、阪神西宮駅、西宮戎神社に近い国道43号線南の酒蔵ゾーンに立地する。GHは5階にあり2ユニット18人が利用する施設である。同じ階に屋上庭園があり水平移動で訪れることができ多種の花や樹木、野菜栽培、散歩や日向ぼっこなど、格好の憩いの場となっている。 開設から4年を経過し、運営は軌道に乗っているが、職員の資質向上を通じてより良い施設づくりを図る等、就労環境の整備について積極的な取り組みがみられる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私たちは、生活者様がゆとりのある時間の中で「我が家」と感じていただき、楽しく過ごしていただける環境づくりをサポートいたします。の理念を管理者・職員共に共有し、日々実践している。	「カトリア」ユニットの職員は、家族と変わらぬ40代、「ローズマリー」ユニットの職員は、アクティブな30代と差があるが、それぞれに運営理念を掲げて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に根付いた施設を目指し、毎日の散歩、買い物を通じて地域住民の方と挨拶や会話等の交流機会を増やし、日常的に交流を行っている。地域のイベントにも参加している。	他施設との複合で五階に配置されているGHで、家族以外の訪問は少ない。外出支援、チャリティバザー等の交流、法人全体でのイベント参加等活発である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々、来られる入居相談者に対し、事業所として在宅介護相談内容も含め、介護者ストレスケアに取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を活かし、地域交流方法の拡大を図っている。	運営推進会議は、民生委員・他施設管理者・家族会代表・地域包括センター職員と事業所関係者が出席して、隔月開催が定着している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常より、介護保険課、福祉課の担当職員と連絡をとり、事業所運営、利用者の方が安定しておくれるよう協力体制を築いている。	開設以来担当してきた管理者が、西宮市と連携を図り必要なアドバイスを得て、事業所運営に生かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が「身体拘束ゼロへの手引き」をマニュアルとし、精神的・物理的・薬物による拘束をしないように日々取り組んでいる。玄関の施錠については、特別養護老人ホーム併設型であるため、解除が安易ではないが、施設として課題に挙げている。	上下移動のEV管理等、やむを得ない場合に限定した施設管理が行われ、身体拘束をしないケアに努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に対し、管理者・ケアマネが定期的に面談をもち、虐待の根源である、ケアをはじめ職員の生活も含めて話し合い、ストレスマネジメントを行っている。「無駄をはぶき職員が楽しい時間を増やす」を目標に職場環境の改善にも日々取り組んでいる。	入居利用者を「生活者」ととらえ職員を含め家族的な雰囲気づくりに努め、人権尊重の運営をしている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現段階での活用事例が少ないため、職員が直接制度を知る機会は少ないが、制度活用に向け「社協のしおり」にて制度を知る機会を持っている。	要介護度が比較的low、また、市内に縁のある家族たちの支えが的確になされており、現存するニーズはないが、権利擁護についてさらに学習を深める予定。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時はもとより、改訂時は個別に、又は説明会の機会をもうけ、契約者が納得して頂けるよう努力している。	契約解約改定時や家族からの質問等の都度、利用者・家族に説明し理解と納得に努めている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所入口に意見箱の設置を行っている、家族様との情報交換の機会としては、担当ユニット担当職員からの直接連絡を基本としており、家族・利用者・職員との信頼関係が築ける様にしている。	苦情設置箱を設置したが、反応がない。他方職員については入れやすいところに設置し、具体的に反応があるので、さらに設置の場所と啓発方法を検討している。	管理者・職員と家族の意思疎通や事業所への意見の反映が課題であるが、テーマを絞ってのアンケートの実施や定期的な家族との懇談会等、率直な意見の収集策を検討されたい。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は定例のユニット会議より職員の意見を把握し、毎月の施設全体会議の議題として運営に反映できるようにしている。	職員は担当制にして日頃からの利用者の思いを把握。職員間で会議を通じ共有し運営への反映を図っている。	「事業所計画」(事業所改善計画)がまとめられている。「事業所目標」は三点、取り組みの内容も具体的である。その成果が職員の処遇と職務能力の向上、ひいてはここで暮らす人々の安心・安全のQOLにつながることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・就業規則の見直し ・フレックスタイムの勤務可 ・人事効果(情意評価レベル)の活用		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・ヘルパー資格支援制度(福祉法人として) ・内外研修の予算化 ・教育委員会発信により、内外研修参加制度 ・メンタルヘルス支援制度のあり方を思案中		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他施設の見学及び研修による相互理解を深めている ・他施設により見学の受け入れ		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・ケアマネ・介護職員にて事前面談を持ち、現在の本人の環境・要望・希望をアセスメントし、それをもとに、ケアプランを作成しケアにのぞんでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・ケアマネ・介護職員にて事前面談を持ち、現在の家族の環境・要望・希望をアセスメントし、それをもとに、ケアプランを作成しケアにのぞんでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の段階で、事前調査の時点で、本人・家族に危険や、過度のストレスが見られる場合は、併設特養のショートステイ・デイサービスの利用も視野に入れ、最善の状態まで入居まで過ごして頂けるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の行動指針として「共に生活」とあり常に意識を持ってケアにあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が直接家族と連絡を取り合う事で、互いに信頼関係を構築し、共に本人を支える様支援している。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が入居までに大切にされてこられた関係が途切れないように、家族の協力を得ながら、手紙・電話・会う機会をもてるように努力している。	利用者の人生経験からの馴染みの人と場との関係を重視している。家族への連絡にも留意している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれ人間関係を日々の申し送りにて職員が把握し、介入すべき時と、そうでない場合を見きわめ、人間関係が円滑に行く様に介入している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も関係を継続し、必要に応じて契約者のご家族様やお知り合いに対し、同施設の他サービスの提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1で職員と本人がお話する時間を使い、本人のニーズや不満をヒヤリングしケア内容とし実現や不満解消につなげられるように努めている。	二つのユニットとも、利用者と介護スタッフのコミュニケーションに力を入れている。一人ひとりの思い等を十分理解し、家族的雰囲気づくりに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	常に本人や家族様よりのヒアリングにて本人の背景情報をアセスメントし、ケアに反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リハビリ(主い散歩)を通しての現状能力の維持、向上を常に考えて現状の把握に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に見直しを行い、様子や状態の変化等について評価を行い、終了又は継続の必要性、新規課題等を関係職員に意見を求め、生活レベルの向上が図れる様にカンファレンスを行い計画書を作成している	各人の介護計画は、本人・家族の理解を得、関係者が話合って確立している。定期的な見直しと緊急時の見直しもケースバイケースで対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録への評価項目にて確認し、担当職員及びユニット職員とカンファレンスを適宜行い、継続性を図り、変化を見極め見直し時に反映している為、些細な事でも実践した内容と本人の様子を記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスを基本サービスとし、本人とご家族のその時の状況に応じて話し合い、対応している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーへの買い物、公園への散歩、西宮神社へのお参り等、豊富な地域資源を最大限利用しながら本人の生活の支援をしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力往診医が主治医の方は定期往診の他、必要時に適切な医療が提供できるように連携をしている。指定のかかりつけ医がある方はご家族様の協力の下、医療機関と連携をとって医療の提供に努めている。	かかりつけ医のある利用者は家族の協力を得て受診、他の利用者は連携医療機関の定期的往診や家族同伴ができない場合、職員が付き添って適切な医療機会の確保をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今期より看護師を雇い、生活者様の健康管理や急変対応の充実を図っており看護師との連携により介護士のスキルアップにも繋がって来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、急な退院も想定し、職員が随時本人の状況が把握出来るように、こまめに管理者、ケアマネ、介護職員が訪院し現状把握に努めている。その際に、本人、家族、医療相談員との連携も行う。		
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状況より今後起こりうるであろう状態について早い段階より家族参加型のケアカンファレンスにて話し合いを持ち、事業所・家族様それぞれの役割について理解する様に努めている。	家族・親族と十分な対応を取り合っている。終末が予想されたケースが入院により改善したため、施設へ戻り引き続きお世話ができていた例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が「普通救急救命講習」を修了しており、急変等に適切な判断と行動が出来るようにしている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、詰所に常に経路図を掲示し、危難経路の把握とシュミレーションが出来るようにしている。地域協力については、運営推進会議で検討中である。	災害対策の備えとして避難経路を掲示している。複合施設であり防災には全体で取り組んでいる。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にケアの質のきほんである「接遇」には力を入れており、職員一人一人が常に意識して本人の尊厳が守られるようにしている。	管理者及び職員は、利用者の人格を尊重。その誇りやプライバシーを尊重、言葉かけや対応に留意し取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も施設の集団行動でなく、自己決定出来る選択肢のある提案やお誘いを職員は心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間帯や契約者様本来の生活に出来るだけ近づいて安心して生活して頂けるように、勤務時間の変更等を行い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により、本人の馴染みの美容室の利用や、化粧品の購入等、常に本人が尊厳を持って生活できるように支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの方の嗜好調査を行い、個人で購入し提供している。食事量が少ない方には、本人が食べたい物をお聞きし提供している。	嗜好調査や好みの把握をしているが、さらに細やかな配慮等、工夫の余地がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量には記録用紙を作成し、健康のパロメーターとして常に管理して、その方の合った食事、水分摂取方法を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔保持が不可能な方に対しては、職員が介入させて頂き、訪問歯科往診と連携して健康な口腔内維持に努めている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護用品の使用は極力控えて、排泄パターンの把握による、排泄誘導、声かけの工夫で失敗を防止している。	排泄パターンの把握によりトイレ使用等自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方に対しては、ヤクルト・こんにゃくゼリー・ヨーグルト・漢方茶等、本人の体に合った食品を探し、便秘薬に頼らない排便を常に目指している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の生活リズムによっては曜日指定となっているが、夜間入浴等、安全を配慮しながら、出来るだけその方が入りたい時に入浴を楽しめるように常に努力している。	浴場の利用時間について、可能な限り本人の希望に応え週二回以上を確保している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も本人の状況に合わせて、休んで頂けようように声かけを行い、夜間は本人の休まれる時間に合わせて声かけしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期往診に職員も立ち合い、薬についての質問や、提案等が出来るようにし、各契約者様の内服薬の把握を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方の生活歴や趣味をいかして、余暇時間の楽しみの提供や役割に活かしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人よりの希望や、良く発言される場所等への旅行や買い物、帰省等に家族様の協力のもと職員も同行し支援している。	日常的な外出に努めており、近場の散歩コースや近隣での買い物など積極的に外出支援をしている。本人の希望に沿い墓参、温水プール利用、出身地訪問などを行っている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理される方はご自身で金銭管理をして頂いており、自己管理が困難な方は事業所が「個人預かり金」として管理し、本人に必要な物を本人と一緒に購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話の希望や、家族との手紙のやりとりが出来るように手紙の購入の付き添いや代筆等の支援をしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約者にとって安心して安全かつ快適に過ごして頂けるように季節感が出るように工夫している。	最も利用時間の長い共用空間を生活感や季節感が感じられる場となるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	契約者の方はリビングと居室(個室)をうまく生活の中で使い分けられるように職員も本人の状況に合わせて声かけを行っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ自宅の本人のお部屋にある馴染みの家具を持ち込んで頂くように家族様に協力して頂き、その後施設での思い出の品や写真を飾り、居心地良く過ごせる工夫をしている。	GHの居室は、我が家であり、馴染の使い慣れた家具などを持ち込み使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の身体能力、認知能力に合わせて生活がいとどなめるように工夫し、残存能力の維持・向上が出来るようにしている。		

基本情報

事業所番号	2890900109		
法人名	社会福祉法人 兼誠福社会		
事業所名	グループホームメヌエット		
所在地	西宮市浜脇町4-33 電話0798-38-2218		

【情報提供票より】平成 23年 5月 9日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤14人 非常勤2人 常勤換算14.8人	

(2) 建物概要

建物構造	併設型		
	鉄筋コンクリート造り 5階建ての5階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	100,000 円	その他の経費(月額)	33,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有り (600,000円)	有りの場合 償却の有無	有り(3年)
食材料費	朝食	500 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ (その他経費に含む)
または1日当たり円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	8 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5		要支援2			

年齢	平均	83.3 歳	最低	65 歳	最高	98 歳
----	----	--------	----	------	----	------

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・医療法人財団 谷向病院 ・医療法人社団 回生病院
---------	-----------------------------

